

成果指標				
成果指標	漁業近代化資金の利子補給件数(累計数)			
指標設定の考え方	事業効果として、資金借受者の金利負担を軽減し、融資が円滑に行われたかどうかを測定するため、利子補給件数(累計額)を指標値とする。(目標値は設定しない。)			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	50	0	0	0
実 績	0	0	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	遅滞なく予算を執行する。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	漁業者及び業業団体への利子補給事業であり、漁業振興には不可欠な事業である。契約に基づく請求に基づき利子補給を行う事務のため介入の余地は少なく、引き続き制度周知を図るのみである。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題